

おとずれ

(発行者) 富士吉田カトリック教会

(住所) 〒403-0005

山梨県富士吉田市上吉田3-5-7

(TEL&FAX) 0555-22-3199

2018年10月第434号 ホームページ <http://www.fgo.jp/~catholic/index.html>

司祭叙階式に参列して

主任司祭 内藤 聡



9月15日(土)にカトリック山手教会司教座聖堂にてフィリポ崔源太助祭の司祭叙階式が行われ参列をしました。富士吉田教会からもサレジアンシスターズのシスター2人を含めて15名の方が参列してくださいました。

崔神父様は富士吉田教会にも7月13日から17日にかけて来てくださり、日曜学校のキャンプなどにも参加して一緒に過ごしてくださいました。

今回、司祭叙階式のミサの中の説教で梅村司教様が言われていたこととして、「日本という異国の地にあつて韓国から宣教師として派遣されたことは言葉や文化の違いもありますが、司祭職を果たしてもらいたい」というようなことを言われていました。

横浜教区の司祭として共に働く崔神父様をこれからも心から支え

ていきたいと思ひます。

私も司祭叙階式にいつも参列すると自分自身の時のことを思い出します。

まだ3年で主任司祭に任命され一生懸命その司祭職を果たしていると思ひますが、やはり慣れといふか新司祭の新鮮な気持ちを忘れてしまっていることもあります。

私の叙階式の説教の中でも梅村昌弘司教様は、教皇フランシスコの言葉を引用して、金が目当ての「実業家司祭」や、人々の前で超然と振る舞う「王子様司祭」になつてはならないといふことを話されました。

今回の司祭叙階式でも、司祭中心主義や小教区中心主義の脱却を話され、特に司祭の意識の変化といふものが大切であるといふことも言われていました。司祭といふのは人々に仕えていくもの、共に協力し歩む者といふことを自分自身もう1度大事にしながらこれからの司牧にもあつていきたいと感じました。

日本での司牧は本当に難しいことや大変なこともあると思ひますが、崔神父様のこれからの司祭職が神様の御旨にかなうものとなるようにお祈りしたいと思ひます。

そして、これからも司祭を目指す神学生のためにお祈りしていただきたいと思ひます。

「詩編をうたう会 – 夏の特別勉強会」に参加して

小山田 匡宏



これをお読みになっておられる方は、カトリック教会の関係者かキリスト教に興味がある方だと想像しています。ですが多くの方は「詩編をうたう会」とは何かを御存じない方が多いかと思えます

「詩編をうたう会」とは日曜日の典礼(ミサ)で、日本のカトリック教会の式中に歌われる聖歌を学び、練習するための東京近辺で活動するグループです。

日本における典礼(ミサ)は、カトリック中央協議会発行(ネットで公開されています)の「ローマ・ミサ典礼書の総則」に従って、第一朗読、答唱詩編、第二朗読、アレルヤ唱、そして司祭による福音朗読を骨子として儀式が進行します。「詩編」とは、ダビデ王とそれに続く人々が残した詩(ポエム)の集まりであり「旧約聖書」の一部です。儀式中で、答唱詩編とアレルヤ唱は、儀式参加の会衆が歌うことが推奨されており、特に「詩編」の部分は一人で歌うことが推奨されています。「詩編」の部分の歌唱は、聖書朗読と等価のため、聖書台で一人の担当者が朗読するのと同じように、ミサ本番中の詩編部分は一人の歌手が歌唱することが推奨されています。歌の難しさもあって避ける人が多いように感じます。

「詩編をうたう会」は主に、典礼中の答唱詩編の背景・歴史・意味合いを学び、詩編の内容に沿った典礼に相応しい歌い方を練習することを活動の中心にしています。「詩編をうたう会」は通常、教会の聖堂をお借りして聖歌練習を行っています。めったにないことですが修道院にて長時間を割いて練習することが企画され、ベタニア修道女会の聖ヨゼフ修道院に決まり、3日間の練習合宿が行われ、私はそれに私費で参加して来ました。

私は富士吉田教会の聖歌隊の一員ですが、聖歌隊だから栃木県那須高原のカトリックの修道院にまで行く必要がある勉強会に参加したのではありません。私がこの会に参加し始めた後に、富士吉田教会に聖歌隊が発足し、典礼中にまじめに聖歌を歌っている私が自然に加わった形です。強いて言えば、聖歌について改めて悟りを得るために参加しました。

典礼は、聖歌隊がいなくても司祭がおられれば実施できますし、地方の教会で、信者がほとんど在籍していない所では、オルガニストさえ不在の場合もめずらしくありません。また、故高田三郎先生の目指す表現の歌唱担当者による再現が難しいこともあり、個人的には答唱詩編の歌唱は軽んじられている傾向があるように感じています。

しかしながら、今回の修道院合宿で丹念にすべての詩編の歌唱を練習した後、修道院の聖堂にて、平林冬樹神父を司祭にお迎えして典礼や「教会の祈り」を歌唱で執り行うことは印象深かつ



たです。司式の歌唱は、自分も含めて、不完全な点がなかったわけではありましたが完成度が高く感じられました。特に歌唱ミサ2回目は、聖霊が降臨したと言っても過言ではない濃密な Spirit の実在の実感があり、「聖霊(Holy Spirit)の賜物」があったと言える典礼でした。

典礼聖歌集の楽譜では表現しきれないところに、詩編の歌唱の真髓があると考えています。

富士吉田教会のメンバーで「詩編をうたう会」に参加してみたい方は、小学生から老齢の方まで気にすることなく私まで相談ください。いつも必ずというわけではありませんが、ミサ司式への貢献でもありますので、会が開かれている所まで車で送迎するくらいの協力は惜しみません。会を指導してくださる鈴木茂明先生はプロの音楽家であり、故高田三郎先生のお弟子さんということもあり、懇切丁寧に、声の出し方から、詩編のグレゴリオ聖歌を取り入れた唱法まで教えてくれます。



日韓青年交流「過去と未来を繋ぐ希望」に参加して

遠藤すみれ

8月10日から15日までセルヴィ・エヴァンジェリーの企画のもと、日本人参加者10人、引率の宣教師3人、韓国人参加者9人、現地の宣教師4人、神学生1人、木川教会主任司祭が集いました。

木川（モクチョン）教会での3日間では、まず、信者のご老人の家庭訪問を行いました。

私が訪問したご家庭では、かつて日本が朝鮮を支配していた時代を知るおばあさまがあたたかく迎えてくださり、当時を振り返りながら「私は14, 15歳だったが、学校に行くと時々日本兵が女子を誘拐して強姦すると言われていたので、両親が行かせてくれなかった。私は教育を受けられなかったことを後悔している。」と一生懸命お話してくださいました。そのおばあさまのお話を心にとめたまま、独立記念館（敢えて紀の字を使うそうです）にも足を運びました。ガイドさんが日本語で、韓国と日本の苦い歴史を細かく教えてくださいました。特に慰安所のパネルの前では涙を流しながら事実を伝えてくださった後、「これは誰も悪くない。戦争が人間をここまで変えてしまった。私たちは未来に戦争を繰り返さないように歩んでいかなければならない」「歴史を非難の目で振り返ってはいけない。未来のためだ。」と繰り返し話してくださいました。

木川で豊かな時間を過ごした後、私たちは海美城（ヘミソン）を訪れました。海美城は王朝時代に1000～3000人余りの信者が生き埋めや石橋に叩きつけられるなどして処刑されている殉教地で、2014年に行われたAsian Youth Dayでは、殉教者の列聖列福に伴って教皇フランシスコが訪れている場所でもあります。近くに海美教会があり、そこに殉教者を祈念したミュージア

ムや碑が置かれていました。私たちは、木川での家庭訪問のお話、独立記念館で感じた様々な思い、韓国の殉教者を、皆で十字架の道行きをしました。

その後も、大田（テジョン）でのホームステイや、日韓の青年のリアルな思いを分かち合うパネルディスカッションなど、計 5 日間の豊かな時間をすごしました。

この企画の中で仲間を通してたくさん神さまを感じ、また、自分の中に変化を感じました。日本と韓国の歴史を振り返るとき、そこにはどちらかだけでなくお互いに苦しみがありますが、それも含めて「神さまの視点で、日本人と韓国人が共に歴史を振り返る」ことは簡単ではありませんでした。5 日間、その歴史の中にも神さまの愛はあったのか、一生懸命考え祈り求めた結果、私は神さまの愛をもっと信じたいと心から望んでいると気づき、大きな喜びに包まれて日本に帰ってくることができました。より、神のみ旨にかなう生き方ができるよう、受洗の準備をすすめようと思います。

皆様、韓国と日本の若者と両国の将来のために、ぜひお祈りください。



敬老のお祝い 後日譚

9 月 16 日主日のミサの中で 20 名の信徒、シスター方々そしてコス神父様が敬老のお祝いを受けられました。今年のお祝いの品は、北海道伊達市にあるカルメル会イエズスの聖テレジア修道院のシスター方が、あの北海道地震の大変な状況の中、お作りいただいたものです。

敬老の皆様、関わってくださった方々に感謝！神様のお恵みがたくさんありますように・・・

教会委員会記録

9 月 2 日 22 名参加

1. 9～10 月の典礼（こよみ）
2. 一粒会について 9 月 17 日（月）聖セシリア学園 参加者 4 名
3. 山梨地区宣教司牧委員会からのお知らせ
山梨地区研修会 10 月 14 日 甲府教会 14:00～16:00
4. 敬老会について ご招待者 38 名 婦人部茶話会準備
5. 教会修繕について 主任司祭、教会委員長、修繕委員、副会長で後日話し合い予算作成
6. その他 「おとずれ」編集は当面、東海林、新井、江守で担当
7. ザビエル祭 11 月 23 日（金）
8. 夏季キャンプの会計報告

教会記録

洗礼 9 月 9 日 おめでとうございます。

© 小さき花のテレジア わたなべ ひまり
渡邊 陽葵

お知らせ

ホスピスなどで使用するための古い綿のシーツや、タオル、シャツ等ございましたら、いただけますでしょうか？切らずにそのままお持ちください。聖堂後方に箱が置いてありますので、その中にお入れください。募集期間はありませんので、よろしく願いいたします。（新井静香）

聖テレジア（幼いイエスの）おとめ教会博士

- 1873年 1月 2日 フランスのアランソンで生まれる
- 1888年 4月 9日（15歳）カルメル会入会
- 1889年 9月 8日（16歳）初誓願宣立 修道名「幼きイエスのテレジア」に
- 1896年 4月 3日（23歳）最初の咯血
- 1897年 9月 30日（24歳）咯血が続き衰弱 19：20分帰天
- 1923年 4月 29日 教皇ピオ11世により列福
- 1925年 5月 17日 同教皇により列聖
- 1997年 10月 19日 教皇ヨハネ・パウロ二世により教会博士と宣言される

テレジアの生涯はけっして、目立つような出来事はありませんでしたが、神様だけに知られることに満足して、人々の目からは離れ忘れられて一生を過ごしたはずなのに、神様のお望みでいつの間にか人々の心から、決して忘れられない小さな花になっていました。

テレジアに助けを求めた人々は、突然病気が治ったり、目が見えるようになったり、歩けるようになったり、神様を信じられないでいた人が神様を信じるようになったり、このような数えきれない不思議こそ、「天国からバラの雨をふらせましょう」と言ったテレジアの約束の実現でした。そしてバラの雨は今もふり続いています。（カトリック関町教会のホームページより）



私たち富士吉田教会の保護の聖人となっているテレジア（幼いイエスの）おとめは、女性が選ぶ洗礼名として人気があり沢山の方々が聖人の取次を願っています。これからも、富士吉田教会を守って頂けるように祈り続けましょう。

こよみ



10月

- 1日 (月) 聖テレジア (幼いイエスの) おとめ教会博士 (記念) ミサ10:00
- 5日 (金) 初金曜日ロザリオ10:00 ミサ10:30
- 7日 (日) 年間第27主日 ミサ9:30 (聖堂掃除は河口湖・都留地区)
- 10日 (水) 手芸会9:30
- 13日 (土) 聖歌練習9:30
- 14日 (日) 年間第28主日 子供と共に捧げるミサ9:30 教会委員会
山梨地区研修会 甲府教会14時
(聖堂掃除は日曜学校・河口湖・吉田地区)
- 18日 (木) 聖ルカ福音記者 (祝日)
- 21日 (日) 年間第29主日 国際ミサ9:30
山梨地区宣教司牧委員会 韮崎教会14時
(聖堂掃除はインターナショナル・山中・忍野地区)
- 28日 (日) 年間第30主日
日曜学校ロザリオの祈り (富士山二合目のマリア像)

 イタリア語教室 月曜10:00 15日・22日・29日
 日曜学校 ミサ後 14日・21日・28日

11月

- 1日 (木) 諸聖人 (祭日)
- 2日 (金) 死者の日 ロザリオの祈り10:00 ミサ10:30
- 4日 (日) 年間第31主日 ミサ9:30 教会委員会

10月のミサ奉仕

日	先唱	聖体奉仕者	侍者	第1朗読	第2朗読	歌伴奏
7	東海林義夫	山本一孝	一雄	福永好雄	宮本禮子	シスター
14	曾根美香	栗原今朝夫	天翔	猪俣瞳子		シスター
21	江守香代子	—	正人	英語		シスター
28	東海林美佐子	東海林義夫	一雄	栗原今朝夫	相沢千代子	シスター